

【腫瘍マーカー検査（女性） 詳細説明】

1	CEA	女性	<p>主に胃がんや大腸がんの腫瘍マーカーで、消化器系がんのスクリーニング検査として広く用いられています。女性の場合、乳癌、卵巣癌、子宮頸部癌などでも高値になります。</p> <p>CEAが高値である場合、体のどこかにがんがある可能性が高いので、症状にあわせてほかの血液検査やX線造影、超音波、CTなど消化器系を中心に、肺や婦人科などの精密検査も必要になります。</p> <p>基準値は5ng/ml以下、基準値の倍以上ではがんの疑いが濃厚、4倍以上では転移がんが疑われます。</p>
2	CA19-9	女性	<p>主に消化器系がんの腫瘍マーカーとして用いられていますが、なかでも膵臓、胆管、胆嚢がんのときには数値が高くなります。</p> <p>膵炎や胆石など良性の疾患が原因でCA19-9の価が高い場合は、症状が治まれば数値も自然に下がります。</p> <p>3～6ヶ月後に経過観察をして、変化がない、あるいはさらに低下していれば、がんの心配はあまりないとされています。</p> <p>基準値は37U/ml以下、100U/ml未満が要注意、それ以上ならがんの確率が高いと判断されますが、グレーゾーンでも注意が必要です。</p>
3	CA15-3	女性	<p>乳がんなどに特異性があるため、乳がんのスクリーニング検査に用いられています。CA15-3は、初期の乳がんではほとんど陽性を示しませんが、転移性乳がんには陽性率が高くなります。進行がんになるとCA15-3の陽性率は10%以上となり、再発例ではCA15-3の陽性率が40%以上となります。</p> <p>CA15-3は乳がん以外では卵巣がん(陽性率約40%)、子宮がん(約25%)、膵がん(約20%)などとなっています。</p> <p>がん以外の病気では、子宮内膜症や骨盤炎症性疾患、肝炎でもCA15-3は高値を示します。基準値は、23.5U/ml以下です。</p>
4	CA125	女性	<p>卵巣がん、子宮がんの特異な反応を示す腫瘍マーカーで、卵巣癌で高い陽性率を認めます。子宮にできるがんには「子宮頸がん」と「子宮体がん」がありますが、日本人には子宮頸がんが多く見られます。また、子宮内膜症と子宮筋腫の鑑別にも用いられます。</p> <p>そのほか乳がん、膵臓がん、肺がん、大腸がんでも高値になります。ただし、CA125は妊娠初期や月経時・閉経前などにも一過性の上昇がみられます。したがって、CA125を検査する際は、採血日に注意が必要です。基準値は、35U/ml以下です。</p>

【腫瘍マーカー検査（男性） 詳細説明】

1	CEA	男性	<p>主に胃がんや大腸がんの腫瘍マーカーで、消化器系がんのスクリーニング検査として広く用いられています。女性の場合、乳癌、卵巣癌、子宮頸部癌などでも高値になります。</p> <p>CEAが高値である場合、体のどこかにがんがある可能性が高いので、症状にあわせてほかの血液検査やX線造影、超音波、CTなど消化器系を中心に、肺や婦人科などの精密検査も必要になります。</p> <p>基準値は5ng/ml以下、基準値の倍以上ではがんの疑いが濃厚、4倍以上では転移がんが疑われます。</p>
2	CA19-9	男性	<p>主に消化器系がんの腫瘍マーカーとして用いられていますが、なかでも膵臓、胆管、胆嚢がんのときには数値が高くなります。</p> <p>膵炎や胆石など良性の疾患が原因でCA19-9の価が高い場合は、症状が治まれば数値も自然に下がります。</p> <p>3～6ヶ月後に経過観察をして、変化がない、あるいはさらに低下していれば、がんの心配はあまりないとされています。</p> <p>基準値は37U/ml以下、100U/ml未満が要注意、それ以上ならがんの確率が高いと判断されますが、グレーゾーンでも注意が必要です。</p>
3	PSA	男性	<p>PSAが高い場合に考えられる疾患は①前立腺癌、②前立腺肥大症、③前立腺炎、などです。また前立腺組織が大きいほど、PSAも高値になります。自覚症状のない初期がんを発見できるのも、現在のところ精度の高いPSA検査をおいてほかにありません。</p> <p>たとえがんが見つかって、初期の前立腺がんは根治も可能です。</p> <p>基準値は4.0ng/ml以下、4.1～10ng/mlをグレーゾーンといい、がんの危険性は20～30%、10.1ng/ml以上では強くがんが疑われ、がんの危険性は50%以上になります。</p>
4	AFP	男性	<p>主に肝臓がんの腫瘍マーカーとして使用されています。</p> <p>ただし、胃がんや肝硬変、肝炎でも数値が高くなることもあります。</p> <p>慢性肝炎や肝硬変で上昇している場合は、適切な治療を受けているならば自然に数値は下がります。</p> <p>それでもAFPの数値が上昇し続ける場合は、がんの合併が疑われます。</p> <p>基準値は、10ng/ml以下、100ng/mlを超える場合は疾患の存在の確実性が高くなります。</p>